

令和3年度入学（一般選抜 前期日程）試験問題の出典

社会福祉学部

種別	大問 番号	著者名	著作物名	書名等	版元
総合 問題	1	菅野 仁	教育幻想 クールティーチャー宣言	筑摩書房, 2010年より pp.35-42	筑摩書房
	2	野澤 和弘 編著 「障がい者のリアルに迫る」 東大ゼミ著	障害者のリアル×東大生のリアル	ぶどう社, 2016年より pp.24-30	ぶどう社
	3	Iwate International Association	"What should we consider before offering support?" Iwate International Exchange: Friends with the World	Iwate International Association, June-July 2019より p.3	Iwate International Association
	4	PETボトルリサイクル推進協議会	P E T ボトルの回収率の推移	PETボトルリサイクル推進協議会 (http://www.petbottle-rec.jp/data/transition.html)	PETボトルリサイクル推進協議会

令和3年度 一般選抜・前期

社会福祉学部

総合問題 (120分)

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この冊子は、11ページあります。なお、下書き用紙が2枚あります。
- 3 試験中に問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの脱落などがあった場合は、手を挙げて試験監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、必ず黒鉛筆(シャープペンシルも可)で記入し、ボールペンや万年筆などを使用してはいけません。
- 5 解答用紙には、氏名及び受験票と同じ受験番号を忘れずに記入しなさい。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 下書きの必要があれば、下書き用紙を利用してかまいません。
- 8 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰りなさい。

問 題 訂 正

○訂正内容

教科名 総合問題

ページ・問題番号・行 10 ページ・4・表下の(注)

誤)

「市町村分別収集量」とは、「容器包装リサイクル法に基づき市町村が消費者から分別収集するもの」であり、「事業系ボトル回収量」とは、「スーパーマーケット、コンビニエンスストア、鉄道会社などで事業者自らが回収するもの」のことである。

正)

「市町村分別収集量」とは、「容器包装リサイクル法に基づき市町村が消費者から分別収集するものの量」であり、「事業系ボトル回収量」とは、「スーパーマーケット、コンビニエンスストア、鉄道会社などで事業者自らが回収するものの量」のことである。

1 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 140 点)

近代の学校制度は1872(明治5)年、学制が頒布されることに始まるといわれます。もちろん、それ以前の江戸時代の寺子屋などからの連続性を考えれば、いろいろな形で学校の起源をとらえることはできるでしょうが、近代の学校制度に関するいちばん一般的なところでいえば、学制の頒布をもって、学校制度の始まりとみることができます。

学校を歴史的に見て、明治新政府がそもそも学校を作った目的から、私が思い浮かべるキーワードは、「産業的身体」の育成というものです。

この「産業的身体」をどう形成するかということが、近代の学校制度の要にあつたと考えられるのです。

「殖産興業」という言葉にショウチョウされるように、明治以降日本は、富国強兵と対になる形で、産業化の進展を推し進めました。日本の産業化は、まずは繊維業を中心とする軽工業において発達し、その後重化学工業の発達へとシフトしていきます。そうした流れのなかの先駆けとして、中学の教科書にも出てくる富岡製糸工場に代表される工場制手工業において、工場労働に適合的な身体①の訓育(注)が必要となつたのです。

まず「産業的身体」の核としては、「時間」と「規律」ということがキーワードになります。

学校には当然のように「時間割」というものが存在します。「カリキュラム」ともいわれますね。こうした時間割というものは、産業的身体性にとっては当然のものでも、より自然環境に埋め込まれた近代以前の生活のあり方からみれば、とてもキウクツで奇異なものであつたはずなのです。なにより、何時何分になつたらこのように動く、このような作業をするといったことを実現するためには、正確に時刻を表示する時計、そして一定の広い地域を同じ尺度の時刻で表示するための基本となる「標準時間」という考え方と、それを支える技術がなければなりません。そしてそれ自体がまさに「近代」の産物といえるのです。

「時間割」の目的は、この時間は何をする、この時間は別の何かをするというように、時間ごとに区切って作業を分割し、効率性を追求することを身体化し、身につけさせることにあります。

(中 略)

近代以前は、農作業をしながら雑談したり、歌を歌ったりすることはいわば日常の風景でした。それが、民謡や民俗舞踊の原点です。農閑期に手仕事をやる場合も、車座になって、みんなとお話ししながら手を動かしていました。そういうことが当たり前だったわけで、「労働」と人々の「コミュニケーション」というものは、前近代では、ほとんど未分化な形で同時にあつたわけです。

ですので、明治時代に製糸工場が出来たときに、工女さんたちに働いてもらうために現場の監督が非常に苦勞したのが、私語をしないで仕事に専念させることだったそうなのです。工場での労働は、それまでの、「みんなでお話しをしながら手仕事をやる」ということとはまったく違う身体性が要求されるわけですから、それをジニイ(注)的に作り上げていかなければならなかつたわけです。

学校でわれわれが当たり前だと思っている「時間厳守」「忘れ物をしない」「私語は禁止」「気分が乗らないからといって休むな」ということは、みんな近代の産業社会の担い手として、われわれ国民に要求された身体性だったのです。そしてそうした身体の基本を作り上げるのが、学校という訓育の場だったということです。

それともう一つ学校が果たしている役割は、「社会の動きに合わせた人々の意識」を涵養することです。^②

戦前は「国民意識」の形成ということが重要でした。とくに戦時中は、皇国教育という形で極端になりましたが、やはりどんな国でも近代国家が作られていくときには「国民意識」が要請されることは、歴史上ほとんど必ず起こっています。

(中 略)

こうした産業的身体の育成と国民意識の形成といった2つの役割は、基本的に今日でも続いています。産業的身体の話に戻りますと、今でもこの考え方は失われたわけではありません。たとえば「これからはパソコン教育と英語教育にますます力を入れなければならない」という議論がさかんに行われていますが、これは現代社会にみあった産業的身体の育成に向けた新たな要請なのです。パソコンも英語も、IT革命とグローバル化をにらんだ身体スキルの要請なわけです。

学校は社会に有用な人材を育成するという目的と常に裏腹の関係にあります。

結局、学校というところは、その時々「社会に適應できる人」「社会に有用な人」を育成することが第一の目的である、と言ってもいいと思います。

しかし皆さんは、あるいはマスコミも、ほとんどの先生ですらも、ややもすると「理想的価値」を身につけさせるとか、「道徳心」を高めるとか、「すばらしい人間を育てる場」というイメージを、学校に対して期待しがちだと思われまふ。とくにまじめな先生ほど、その思い込みが強いという傾向があるように思われます。しかし、あまり理想を高く設定しすぎると、現実からのしっぺ返しも強くなります。

ここまで述べてきた中で、とりわけ私がとくに言いたかったのは次のようなことです。

まず学校というのは、そもそもの成り立ちとして、産業的身体を作ったり、その都度の社会に適合的な人間の意識を作るといったことが、ベースになっている場でした。もともと、カジョウに高邁な理想をもって、人間の資質や個性を伸ばそうとして生まれた場所ではないということですから。そして「学校」が持つこのコンセプトは、形を変えつつ、現在までも変わっていないと考えられるのです。だからそこを出発点に、学校という器を考えたほうがよいと私は思うのです。

ですからあんまり肩肘を張らずに、初めから学校という場をあまり理想化して思い描かないほうがいい、というのが、私が主張したい第一のポイントです。

「しよせん学校」という制度なのです。もちろんすぐその後には、「されど学校」という言葉が続くわけなのですが。

つまり、あまり学校を理想化せずに、「バランスの良い学校イメージを保っていかう」ということが、私の考えのポイントなのです。^③

(菅野仁『教育幻想 クールティーチャー宣言』、筑摩書房、2010年、pp.35-42より、一部改変)

(注) 訓育：教え育てること

問 1 下線部(ア)~(エ)のカタカナを漢字に直しなさい。

問 2 下線部①「工場労働に適合的な身体の訓育」とはどのようなことか。本文の内容に即して 40 字以上 60 字以内にまとめなさい。

問 3 筆者は学校の第一の目的は何だと述べているか。最も適切な箇所を 35 字以内で本文から抜き出しなさい。

問 4 下線部②「『社会の動きに合わせた人々の意識』を涵養^{かんよう}すること」と同じ意味で使われている言葉を本文から 10 字以内で抜き出しなさい。

問 5 下線部③「バランスの良い学校イメージを保っていこうということが、私の考えのポイントなのです」とは、具体的にどのようなことか。筆者の考えを 150 字以上 200 字以内でまとめなさい。

2 次の文章は、障がいのある人を講師として招いた大学の授業の受講生が書いたものである。文章を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 140 点)

今回呼ばれたのは、岡部宏生さんという名前の人だった。彼は ALS(筋萎縮性側索硬化症) という障害を持っていて、身動きが取れない。脳の命令を筋肉に伝える神経細胞が侵される難病だ。それも、先天的ではない。ある日突然でもなく、徐々にである。どちらが恐ろしいかはもちろん私にはわからない。わからないが、想像してみた。朝目覚めたら身体が全く動かない。金縛りか? いや、いつまでたっても動かない。誰か気付いてくれ。次は、徐々に発症する場合を考えてみた。まず手足の指が動かしにくくなって、病院に行く。ALS だと診断され、今後さらに進行していくことを知る。肘から先が動かなくなり、熱さも冷たさも感じない。次は脚だろうか。歩くこともままならなくなる。いつの日かしゃべれなくなる日が来る。かといって家族とはいまさらなにを話せばいいのだ。そこまでで想像を止める。あまりに恐ろしかった。 1

目の前に横たわる岡部さんからは、生气というものが感じられなかった。無表情に、ただ天井を見つめている。

しかし、この病気で失われるのは身体の動きだけで、脳の動きはなにも変わらない。変わらないどころか、身体が動かない分脳は爆発しそうなほど活発になる場合もある。体がこの状態だと、意識も朦朧としてなにも考えていないように見えるが、一切の自由を失ってしまったこの体の内側には、[A]一人の人間がいるのだ。余計恐ろしいと思った。

岡部さんはもともと会社の社長だったのだという。自分にも社員にも厳しく、周りに頼られる敏腕の持ち主だった。はきはきとしゃべり、後輩に檄を飛ばす岡部さんの姿が頭をよぎった。この体の中に、この状態になった今でも、頭にはいろんな感情が渦巻いているのだろう。「もどかしい」という言葉では言い表しきれない、精神的苦痛があるに違いない。

ALS 患者に最終的に残される唯一の身体的自由は、まばたきである。介護者に助けてもらいながらまばたきで 1 文字ずつ紡いで、文章を完成させていく。「はじめまして」を言うのにも 30 秒近くかかるし、「喉が渴きました。水をください」というのに 1 分かかけなければならない。そんなわけで、授業と言っても彼が私たちに投げかけられる言葉の量は限られている。

岡部さんが簡単な自己紹介を終えると、ビデオが流れた。岡部さんの普段の生活の様子が映し出されている。介護士が 4 人がかりで岡部さんを入浴させ、服を着せる。ベッドに戻ると、管を通して栄養分を摂取する。とにかくなにをするにしても、大変な労力を要する作業だった。

不謹慎ながら、あえて率直な表現をさせてもらいたい。「なんのために生きているんだ」と思った。こんなことを思っている自分が怖かったが、そう思わざるを得なかった。なぜ死なないんだ。 2 何人もの介護士が一日中大変な労力を費やすほどの価値が、彼の命にあるのだろうか。小学校でも家でも、「命はなによりも大事」だと教えられてきたし、誰もが同意する常識であるに違いない。けれどこのビデオを見て、彼の生きる意味を疑ったのは私だけではないはず

だ。もし私だったら、4人の若者の手を煩^(ウ)わせて風呂に入るのは情けないと感じるし、なにもできずただ呼吸をしているだけなら、死にたいと思った。 3

ビデオが終わると、質疑応答の時間が来た。手を挙げ立ち上がり、勇気をもって訊いてみた。
「死のうと思ったことはないですか？」

答えはまばたきによって介護士に伝えられ、それをまとめて介護士が私たちに読み上げる。しばらくの間待たなければならなかった。でも、私の質問に対して岡部さんは、考える間もなくすぐにまばたきを始めた。立ってまばたきが止まるのを待っている間、どんな答えが返ってくるかと緊張していた。なんと不謹慎な質問だ、と怒ったりしないだろうか。2～3分経って、介護士が答えを読み上げた。

「症状が進行する間、何回も、何十回も自殺しようと思いました。けれど気づいたら自殺をすることもできない身体になってしまいました。まさに手遅れというやつですね」

どう反応したらいいかわからず、立ち尽くしてしまった。なんと救いようのない答えなんだ。

4 別の生徒が手を挙げた。

「ALSになってから、どんな心境の変化がありましたか」

岡部さんはまたすぐにまばたきを始める。今度は3分くらい待たせようか。介護士が読み始めた。

「ALSになる前は、仕事のことばかり考えていました。通勤する時も、早く仕事場に着くことがなにより大事でした。今になって、もっと外の世界を感じておけばよかったと思います。日の光や風の感触、地面を踏みしめる足の感覚。発症前は考えてもいなかったような当たり前のことが、今ではとても恋しいのです」

他にもなにか言っていたのだが、すべては覚えていない。けれど、一つ一つの言葉が驚くほど心に響いたのは覚えている。膨^(ウ)大な量の感情と思いに対して、表現できるのはほんの少し。数えきれない伝えたいことの中から、選ばとられた言葉だ。

気付くとあと10分で授業は終了だ。最後の質問ということになった。手を挙げた生徒はこう訊いた。

「もし今、ALSを治して元の身体に戻ることが可能だとしたら、戻りますか」

今度は、まばたきを始めるまでに少し時間がかかった。迷っているのだろうか。それとも答えは決まっているが、どう表現したらいいのかわからないのか。

自分だったら、と考えた。自分だったらどうするだろうか。迷うことなく元の身体に戻らう。元の身体に戻って、外を思い切り走り回り、好きなものを食べたい。訊くまでもない質問ではないかと思った。

「絶対に戻りません。戻りたくありません」 5

「ALSになって、最初は絶望と葛藤しかありませんでした。けれど今は、ALSにならなかつたできなかったことをやっています。いろんなところへ行っているいろんな人にこの病気を知ってもらおう。生きがいがあるのです。だから、身体と心の自由、どちらかをとるとしたら、迷い

なく心の自由をとります。しかしみなさんは、どちらの自由も持つことができるのですから、大切にしてください。どちらの自由も失わなくて済むように、一生懸命生きてください」

帰り道、改札を通過して電車に乗った。いつもなら途中で急行に乗り換えるが、今日はそのまま各駅停車に乗っていたい気分だった。

彼と会うことはおそらくもうないだろう。そう思うといたたまれなくなった。別に、明日彼が私が死ぬわけではない。でもこれでお別れで、いつかどちらかが死ぬ。死別となにも変わらないではないか、と思った。彼だけではない。今電車に乗って来た男とも、隣に座る女とも私が電車を降りたら二度と会うことはない。そう考えると、見知らぬ人たちが途端に愛おしく見えてきた。

毎朝電車で乗り合わせる人たちを、どうして否定的に見ていたのかわかった気がした。彼らと自分を比べて優越感に浸りたかった。本当は自分に自信がなくて、生きている感じがなくて、とにかく下を見つけるのに必死だった。彼らを見下して、自分のほうがまだマシだって、自分はすごいだって、思いたかった。けれど、私にとって彼らは自分の人生の脇役でしかないけれど、彼らにとっても私は脇役にすぎない。というか、そもそも登場していないかもしれない。

私は、岡部さんを見下していたと思う。体が動かなくなると、かわいそうで憐れだと思った。身体は動かず、言いたいことも思うように言えない岡部さんと、思うままに走り回ることができて、毎日いろんな人としゃべり、やりたいことをできる私。でも、どちらが幸せを感じられているか。間違いなく岡部さんだ。私は彼に負けている。人から見て私は多くのものを持っているし、羨ましがられる人間だ。けれど、幸せだなんて思ったことはない。他人と自分を比べて一時的な満足を味わってばかりで、幸せになれるわけなかった。心を曇らせて、無意識の自己嫌悪を生むばかりだった。いろんな感情が渦巻いていた。

(「障害者のリアルに迫る」東大ゼミ著、野澤和弘編著『障害者のリアル×東大生のリアル』、ぶどう社、2016年、pp.24-30より、一部改変)

問 1 下線部(ア)～(オ)の漢字の読み仮名を書きなさい。

問 2 文中の[A]の中に入る適切な文言を次の中から選びなさい。

ア 追い詰められた	イ 我々となにも変わらない	ウ 異次元空間を生きる
エ がんじがらめの	オ まどろんでいるかのような	

問 3 下線部①「精神的苦痛があるに違いない」とあるが、そのように考える理由は何か、本文の内容に即して130字以上150字以内で答えなさい。

問 4 下線部②「でも、どちらが幸せを感じられているか。間違いなく岡部さんだ。私は彼に負けている」とあるが、なぜ筆者はそう考えたのか、その経緯を含め本文の内容に即して180字以上200字以内で説明しなさい。

問 5 次の文は本文中に入れるべきものである。 ~ から最も適当な箇所を選び、番号で答えなさい。

3 次の英文を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 110 点)

The Iwate International Association celebrated “World Fair Trade Day” on Saturday, May 11th. We held a mini-workshop and film screening of the movie “Poverty, Inc.”, after which we discussed a variety of problems revolving around the act of “support”.

In this workshop, in order to easily illustrate^① how global income is being distributed throughout the world, we used 3 bags of potato chips to represent the total sum of global earnings, and divided them among 5 groups in a manner^② that would reflect how earnings are being distributed today.

These 5 groups represented the Upper Class, the Upper Middle Class, the Lower Middle Class, the Working Class, and the Poor. After dividing them up, the Upper Class was (ア) possession of (イ) bags of chips, and the last bag had to be divided among the remaining (ウ) groups. The Poor received little more than a single chip in the end. After seeing “equality” in this way, you might think that (エ) to support the impoverished would be the right thing to do, however, “the way in which we offer support” becomes our next^③ problem.

We’ll use the example that was used in the movie; a large quantity of solar panels was sent to aid Haiti following the 2010 Haiti Earthquake. At a glance, one might assume that this^④ would help support the lives of the people, and perhaps even enrich them. For some people, however, it did the exact opposite. Namely, the employees of Haiti’s largest solar panel company, Enersa. Their business continuity was threatened as they had no means to compete with free solar panels. This example shows how “good intentions” can harm people by taking away their independence. This story is a long way from Japan, but we’re sure that there are people who can remember similar situations (オ) the wake of the Great East Japan Earthquake and Tsunami. This could have been our story.

However, we do not mean to say that all support will result (カ) more pain. Temporary aid will of course be necessary for those (キ) need following a disaster, but the appropriate means of supporting them will differ depending on the time, the place, and the current situation. There may not (コ 才), but upon learning this, the first thing we should consider from now on is how the support we are sending might be used, and what effect it may have on the people that receive it.

(Iwate International Association, *Iwate International Exchange: Friends with the World*, “What should we consider before offering support?”, June-July 2019, p 3 より, 一部改変)

(注) World Fair Trade Day 世界フェアトレード・デー
revolving ~を中心に展開する
impoverished 貧しい
the 2010 Haiti Earthquake 2010年ハイチ地震

問 1 文中の(ア)に共通して入る最も適切な前置詞を1つ書きなさい。

問 2 下線部①, ②とそれぞれ同じ意味の単語を, 本文から抜き出し, 英語で書きなさい。

問 3 文中の(イ)と(ウ)に入る適切な数を算用数字で書きなさい。

問 4 文中の(エ)に入る最も適切な語句を以下から1つ選び, 英語で書きなさい。

offer offered to be offered offering to be offering

問 5 下線部③の next とは何の「次」であるのかを, 本文の記述に基づき, 「○○すること」という表現を用いて日本語で書きなさい。

問 6 下線部④を日本語に訳しなさい。

問 7 次の語句を並べ替えて, 文中の(オ)に入る, 最も適切な英語の表現を作りなさい。

anyone / be / knows / offer / support / the perfect way / to / who

- 4 以下の表は、PET ボトルリサイクル推進協議会が公表している「PET ボトルの回収率の推移」の資料をもとに作成したものである。表を読み、あとの問いに答えなさい。(配点 110 点)

表 PET ボトルの回収率の推移

年 度	市町村分別 収集量 (万トン)	事業系ボトル 回収量 (万トン)	回収量 計 (万トン)	PET ボトル 販売量 (万トン)	回収率 (%)
2005	25.2	7.5	32.7	53.0	61.7
2006	26.8	9.2	36.0	54.4	66.2
2007	28.3	11.3	39.6	57.2	69.2
2008	28.4	16.2	44.6	57.3	77.8
2009	28.7	15.0	43.7	56.5	77.3
2010	29.7	13.4	43.1	59.6	72.3
2011	29.8	18.3	48.1	60.4	79.6
2012	29.9	22.8	52.7	58.3	90.4
2013	30.2	22.7	52.9	57.9	91.4
2014	29.2	24.0	53.2	56.9	A
2015	29.3	22.0	51.3	56.3	91.1
2016	29.8	23.1	52.9	B	88.8
2017	30.2	23.9	54.1	58.7	92.2
2018	28.2	29.0	57.2	62.6	91.4

(PET ボトルリサイクル推進協議会『PET ボトルの回収率の推移』, <<http://www.petbottle-rec.gr.jp/data/transition.html>>より, 一部改変)

- (注) 「市町村分別収集量」とは、「容器包装リサイクル法に基づき市町村が消費者から分別収集するもの」であり、「事業系ボトル回収量」とは、「スーパーマーケット、コンビニエンスストア、鉄道会社などで事業者自らが回収するもの」のことである。

問 1 「回収率(%)」の計算方法を数式にした場合、以下の空欄 , ,
 , にはどのような言葉や数字があてはまるか、答えなさい。

$$\text{回収率(\%)} = \frac{\text{ア} + \text{イ}}{\text{ウ}} \times \text{エ}$$

問 2 にあてはまる数値を答えなさい。なお、解答欄には、小数点第二位を四捨五入して、小数点第一位までの数値を記入しなさい。また、答えに至るまでの過程がわかるよう、計算式も解答欄に記入しなさい。

問 3 にあてはまる数値を答えなさい。なお、解答欄には、小数点第二位を四捨五入して、小数点第一位までの数値を記入しなさい。また、答えに至るまでの過程がわかるよう、計算式も解答欄に記入しなさい。

問 4 「回収率(%)」の推移をみると、2005年度以降上昇し、2012年度以降の回収率は90%前後で推移していることがわかる。このように回収率が上昇した理由として考えられることを表から読み取り、説明しなさい。